

情報社会の未来の姿

情報自治 × EBPM × AI

東海大学政治経済学部 教授 小林 隆





本日のお話

1. 未来の情報社会の人々は何を求めているのか？
2. EBPM (Evidence Based Policy Making) とは、何か？
3. AI (Artificial Intelligence) ができることは何か？

小林 隆 (こばやし たかし) 慶應義塾大学大学院政策・メディア研究科後期博士課程修了。博士(政策・メディア)。神奈川県大和市で参加のまちづくりを実践し、現在、東海大学政治経済学部政治学科教授、東海大学大学院法学研究科長・同法律学専攻長。英国カーディフ大学客員研究員、総務省「ICTを活用した地域のあり方に関する研究会」委員、総務省「地域情報化アドバイザー」、神奈川県「総合計画審議会」委員などを歴任。著書に『情報社会と議会改革 -ソーシャルネットが創る自治』(イマジン出版)、『インターネットで自治体改革 -市民にやさしい情報政策』(イマジン出版)、『ITがつくる全員参加社会』(共著、NTT出版)、『市民参加のまちづくり-マスタープランづくりの現場から-』(共著、学芸出版社)など。



情報自治

Smart Self Governance

個人が情報通信技術を利用して形成する社会関係資本による自己統治



情報社会のイメージに関する調査

調査期間: 2003～2011年

調査方法: 情報社会のイメージを絵に描かせる

調査対象: 筆者講義履修の大学生

調査数: 約800件

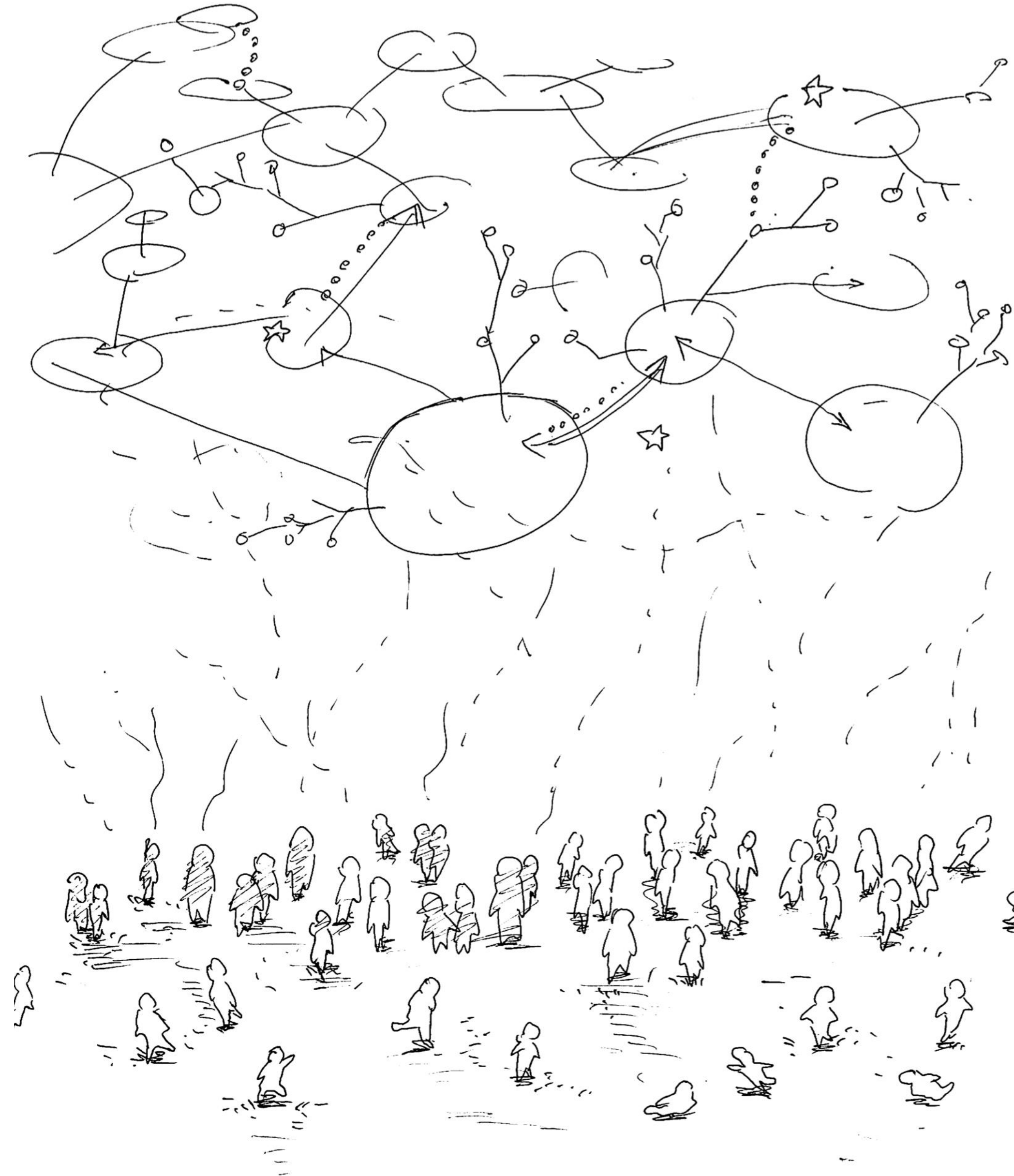
調査の目的: 個人の情報社会に対するイメージを概観し、ICTで個人がその行動決定の判断において個人や社会との関係認知を必要としていることを確認する



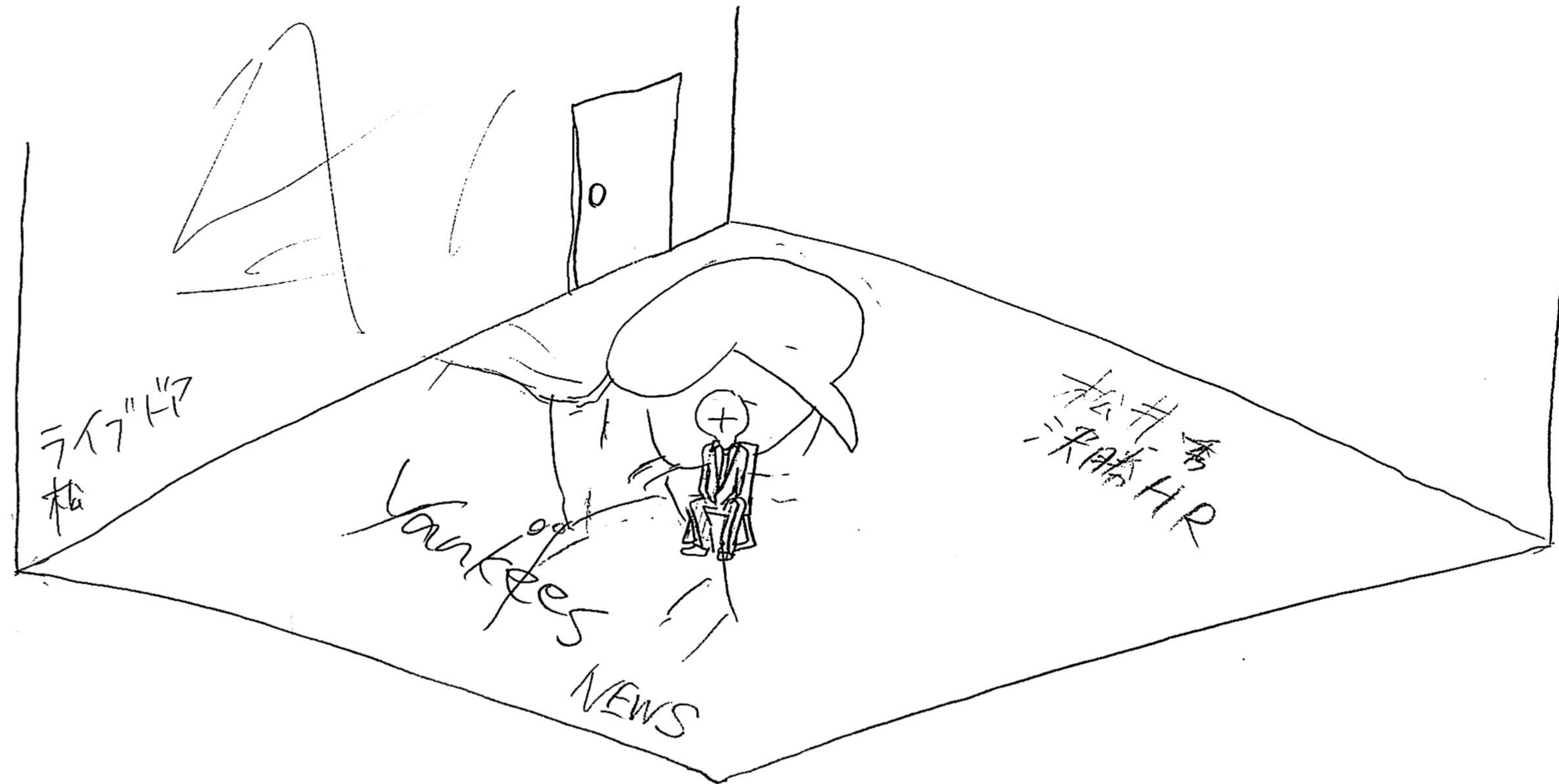
参照を前提とする個人の判断



カオスとしての社会全体

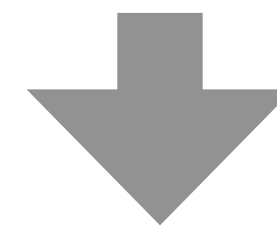


深まる個人の興味と不安と孤独



情報自治のためのニーズ

- 1) 参照を前提とする個人の判断の支援
- 2) カオスとしての社会全体に対する個人の定位
- 3) 深まる個人の興味と不安と孤独への対応



情報社会の個人は、**安心**して行動を決定するために個人や社会との関係の認知を必要としている



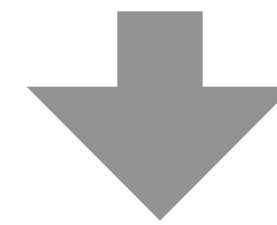
EBPM

Evidence Based Policy Making
証拠に基づく政策立案



EBPMに求められるもの

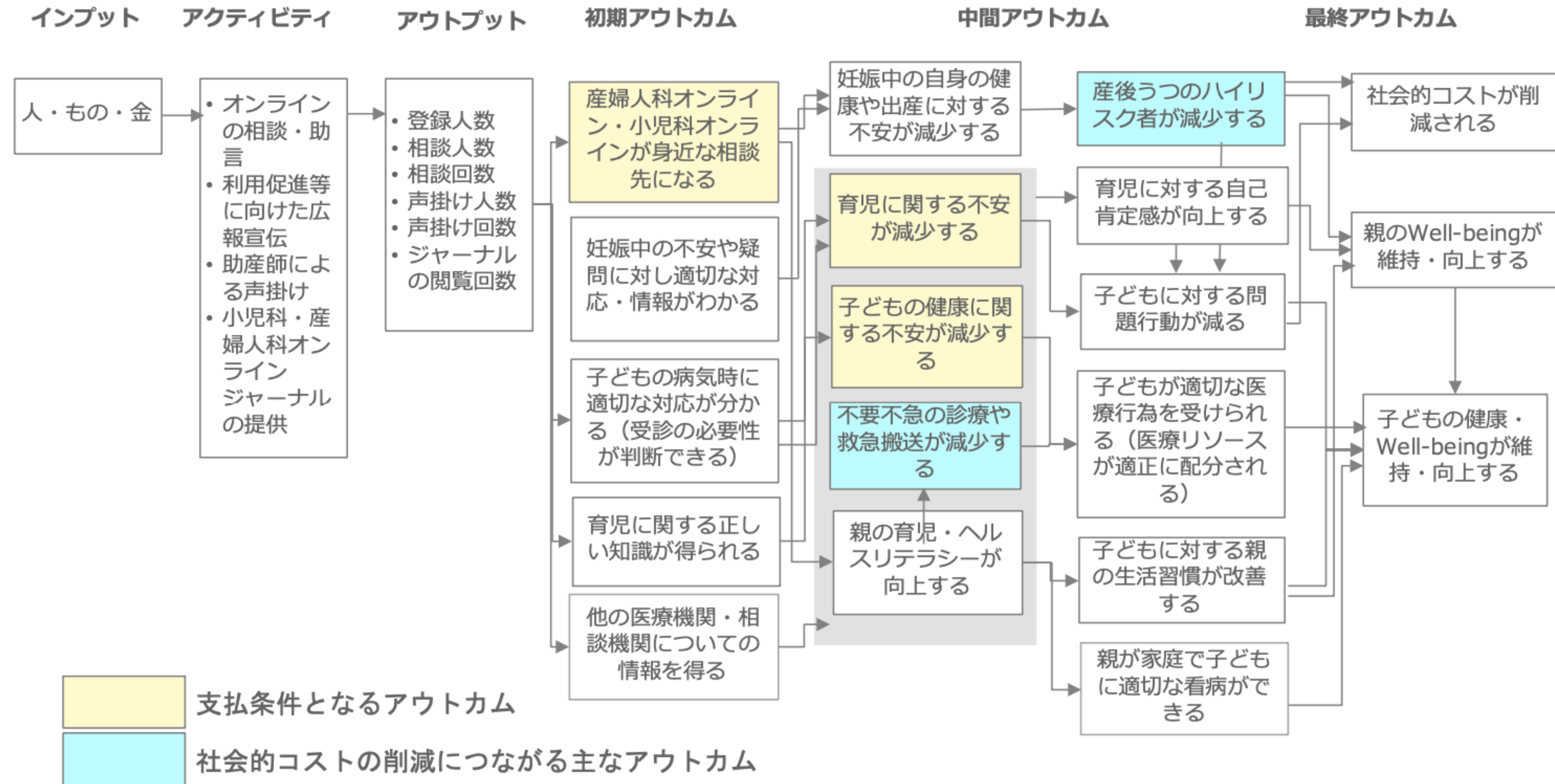
- 1) なぜ、その政策が実施されるのかわからない
→ ロジック・因果関係
- 2) その政策にどのような効果があるのかわからない
→ インプット・アウトプット・アウトカム・インパクト
- 3) 実施後に、その政策をどのように修正すればよいのかわからない



EBPMは、政策に根拠を与えることで評価と修正を容易にするための手法の一つ

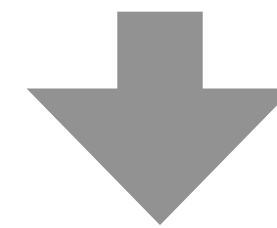


図2 本事業のロジックモデル



EBPMがないと・・・

- 1) なぜ、その政策が実施されるのか、されているのかがわからない
→ だから、何もしない(前例踏襲)
- 2) その政策にどのような効果があるのかわからない
→ 説明も、理論的に解決することもできない
- 3) 実施後に、その政策をどのように修正すればよいのかわからない
→ 改善・改良の方法が見出せない

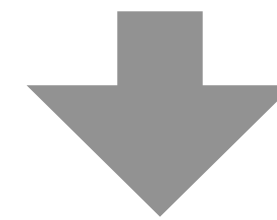


EBPMは、政策に根拠を与えることで評価と修正を容易にする



エレベーターの待ち時間が長い！

- 1) エレベーターを増設する
- 2) エレベーターの機種を変更する
- 3) 新たに開発されたエレベーターの制御装置を新設する



いずれの政策も**莫大なコスト**がかかり現実的ではない！



「各階のエレベーターの前に、大きな鏡を置きましょう」

問題を組み替えることで問題を解決する

ラッセル・L. エイコフ(1983)「問題解決のアート」建帛社





出所: <https://www.youtube.com/watch?v=NrmMk1Myrxc>



AI

Artificial Intelligence
人工知能



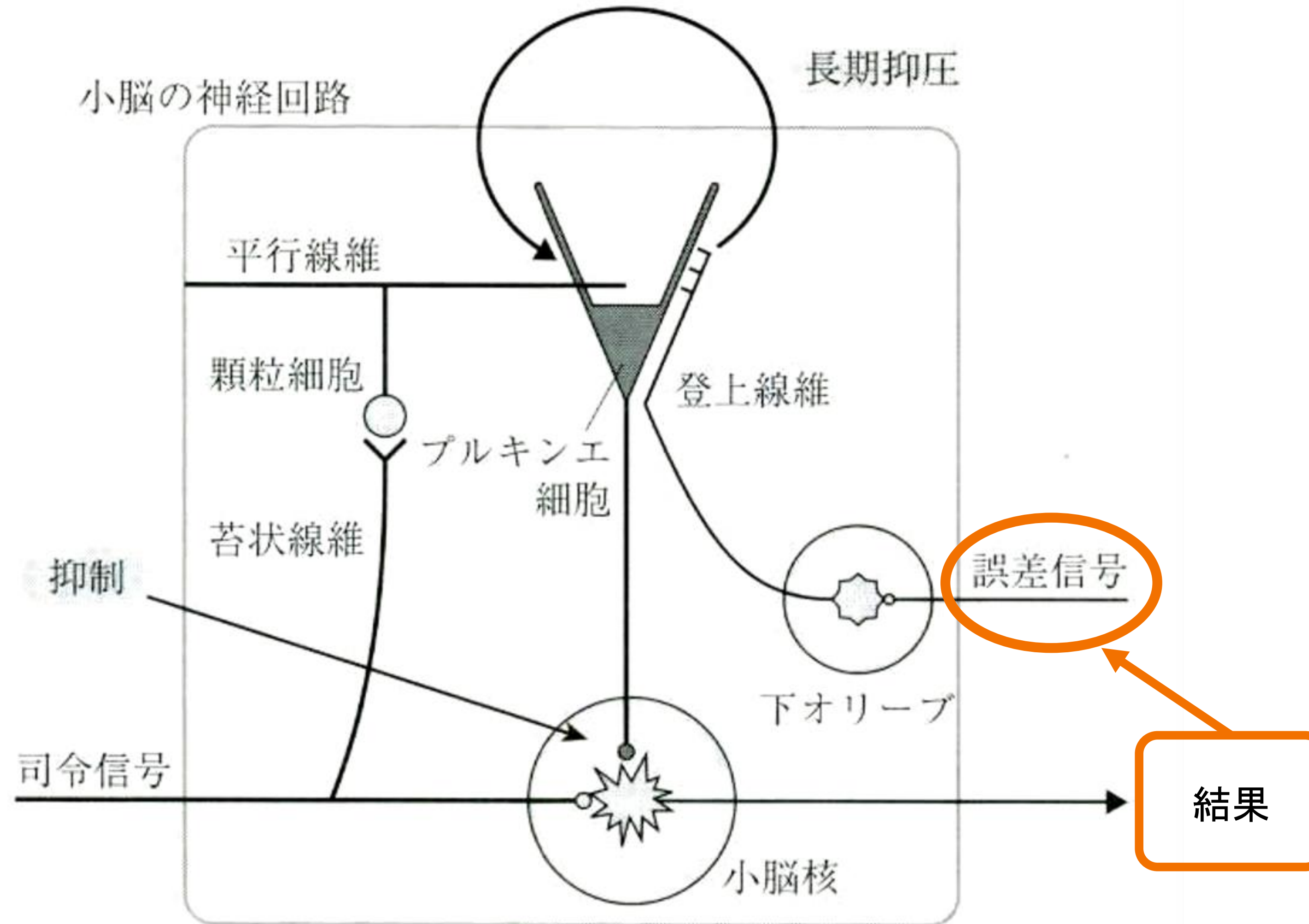


図 13 小脳の運動学習



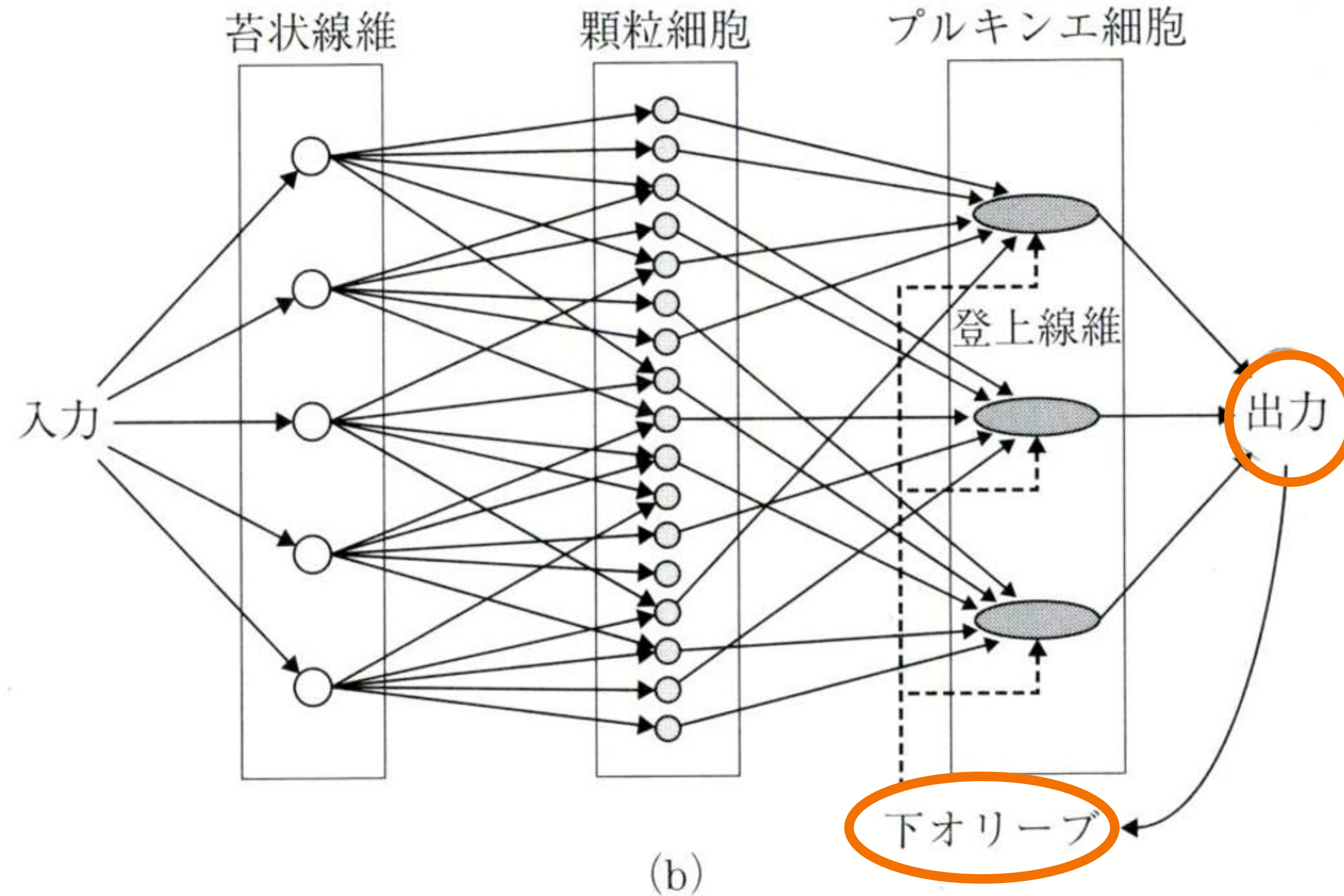
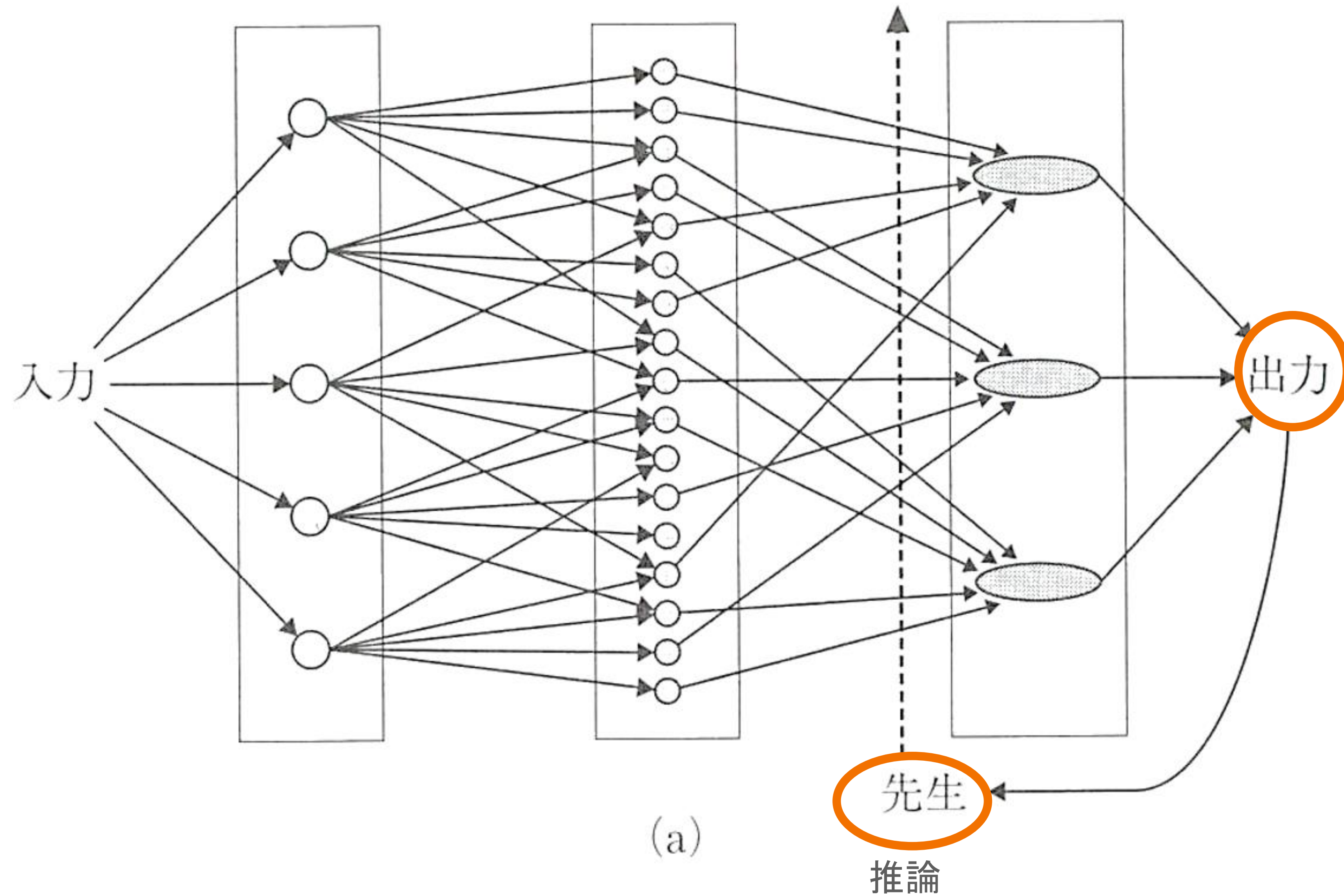


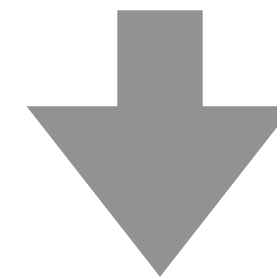
図 12 単純パーセプトロン(a) (Rosenblatt, 1962) と小脳のパーセプトロンモデル(b) (Marr, 1969; Albus, 1971)





AIができること

- 1) 過去のデータからパターンをとりだす
- 2) アルゴリズム(先生)による誤差修正
- 3) パターン認識とアルゴリズムによる予測・推論



AI(人工知能)ができるのは、**限られた範囲の推論**問題の
組み合わせはむづかしい

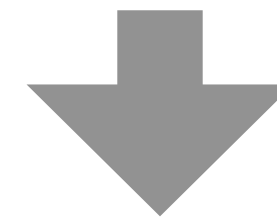


情報自治 × EBPM × AI



情報自治 × EBPM × AI

- 1) 情報社会で人々が求めるものは社会との関係を認知できる安心感
- 2) EBPMは政策に根拠を与え評価と修正を容易にする手段
- 3) AIができることはパターン認識とアルゴリズムによる限られた範囲の予測・推論



EBPMは、すべての政策評価ではなく、**政策の選択と説明**が求められる政策を対象に実施すべき



エレベーターの前に、大きな鏡を置けるのは人間だけである





tk@takashikobayashi.com

